シンポジウム１：これからの認知症ケアと在宅医療

演題名	新しい認知症施策（オレンジプラン）の概要と今後の認知症ケアのあるべき方向性について

概要

2013 年から厚生労働省はオレンジプランをスタートさせ、すでに研究事業や研修を開始している。認知症ケアの基盤は在宅であり、国は「地域包括ケア」の構築をめざしている。地域包括ケアの重要性はいうまでもないが、介護施設や行政との連携も必要となる。いかに地域での医療と福祉の連携が重要であり、地域ケア会議の展開も重要である。在宅医も今後は認知症診療への参加は避けて通れず、地域ケア会議の参加の機会も増えるであろう。

本シンポジウムでは認知症ケアパスや、一般病院の医療従事者への研修、認知症カフェなどの主な政策の現状と課題について、概説する。また今後の認知所ケアのあるべき方向性として、在宅は正しいが、多くの困難を伴う、家族支援をはじめ、ＢＰＳＤの軽減や、介護サービスの利用がなくては在宅療養の継続は困難である。逆に言えば、いかに家族支援を行うか、プライマリケアにおいて介護負担をいかに軽減できるか、ＢＰＳＤのコントロールができるかがポイントである。また介護施設でのケアの向上も避けて通れない。オレンジプランをベースに地域での認知症ケアの向上や取り組みが進展することを期待している。